

平成 24 年度歴史講座「藩政時代の青森町を歩く」を開催しました

『新青森市史』通史編第 2 巻（近世）刊行記念歴史講座「藩政時代の青森町を歩く」

市史編さん室では『新青森市史』通史編第 2 巻（近世）の刊行を記念し、青森市男女共同参画プラザ「カダール」と共同で歴史講座「藩政時代の青森町を歩く」を開催いたしました。

現在の青森市には藩政時代の風景はほとんど残っておらず、その時代の青森をイメージすることはとても難しいことと思われていますが、実は、当時の青森町の街区は、現在でもほぼそのまま残っています。

つまり、藩政時代の町割りの上に、現在の建物が建ち、私たちは当時の人々とほぼ同じ道を日々歩いているのです。

当日は青森町の特徴や藩政時代を感じる場所について説明を聞いたあと、藩政時代の絵図を持って実際に新町周辺を歩いてみました。

なお、定員 20 人でしたが、申込多数のため抽選を行わせていただきました。

開催日時：2012 年 6 月 9 日（土曜日）13 時 00 分～15 時 30 分

会場：青森市男女共同参画プラザ「カダール」研修室（青森駅前アウガ 5 階）～新町・安方地区

講座のようす



講師 市史編さん室事務長 工藤 大輔

（写真の場所は新町の安定寺）



「町歩き」の前にカダールにて講義を行いました。



(1) 栄作堂本店前

絵図に描かれた水路の跡を探しながら歩きました。栄作堂本店の横を通るこの道も水路の跡になります。（『新青森市史』通史編第2巻 637～639 ページ）



(2) 県庁付近

青森御飯屋や青森御蔵、町奉行屋敷など政治的に重要な建物があった県庁付近を歩いていきます。（『新青森市史』通史編第2巻 309～315 ページ）



(3) 青森御飯屋の碑

青森御飯屋は弘前藩の出先機関でした。現在、青森県庁内（長島地下駐車場入口の向かい側）には御飯屋跡を示す碑があります。（『新青森市史』通史編第2巻 2 ページ、628～630 ページ）



(4) 一念寺

一念寺は弘前の一瓢舎半升いっぴょうしゃはんしょうという人物が記した旅行小説『御国巡覧滑稽噺盡戯』おくにじゆんらんこっけいそうつきげにも登場しています。（『新青森市史』通史編第2巻 701～702 ページ）



(5) 鉤型の交差点

安方にある不思議な形をした交差点。この鉤型は藩政時代の町割りに由来するものです。当時の人々もこの道を歩いていたのです。（『新青森市史』通史編第2巻 639 ページ）



(6) 善知鳥神社

善知鳥神社は、17世紀中頃の絵図によれば、写真の赤い鳥居の奥（西側）が境内地で、参道は弁財天から新町方向に伸びていました。これは青森町ができる以前のようすを伝えている可能性があります。実は新町周辺が門前町的な存在であって、これが青森誕生以前の「善知鳥村」解明の手がかりになるかもしれないという興味深い話がありました。（『新青森市史』通史編第2巻 632・633 ページ）

今回歩いたコース

アウガ（講座会場）→東横イン前→ホテルサンルート前→栄作堂本店前→県庁北棟付近→県庁第2駐車場付近
→安定寺→県庁→村上新町病院裏→一念寺→JAL ホテル付近→安方・鉤型の交差点→善知鳥神社（解散地点）

町歩きマップ

今回歩いたコースを気軽に歩いていただけるよう、マップを作成しました。ぜひこの町歩きマップを片手に町歩きを楽しんでください。



本図は、弘前市立博物館蔵「青森町絵図」をベースマップとしてトレース・作図したものです。